

第7章 日韓高校生のライティングに関する詳細分析 ～答案分析を中心に

東京外国語大学大学院博士後期課程 井上千尋

1. 背景・目的

本章は、今回の調査結果の中でも、日本と韓国の違いが顕著だった、英語コミュニケーション能力調査でのライティングの結果を取り上げ、アンケート項目の分析と実際に生徒たちが書いた答案の分析をあわせて行うことで、結果を詳細に検討し考察を加えようとするものである。

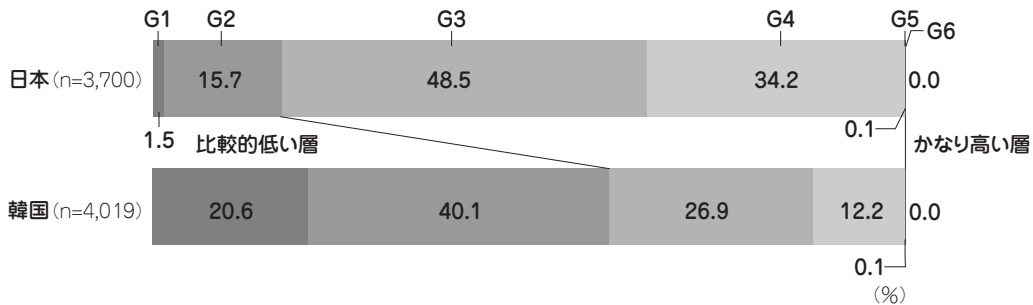
今回の調査における日韓の3技能の平均スコアの結果をみると、ライティングの結果に関して2つの疑問が出てくる。まず、韓国のライティングのスコアがリーディング、リスニングに比べて、かなり低いことについてである。今回の調査におけるライティングの平均スコアは、日本が91.4点、韓国は66.5点であった(表7-1)。グレードの分布をみても、日本の最頻グレードが3であるのに対し、韓国の最頻グレードは2と低いことがわかる(図7-1)。他技能では、韓国はリスニングで20点以上、リーディングで50点以上も日本の平均スコアを上回っている(表7-1)というのに、なぜライティングはこのように低いのだろうか。

表7-1 英語コミュニケーション能力調査結果
(GTEC for STUDENTSの平均スコアと標準偏差)

	リーディング (320点満点)		リスニング (320点満点)		ライティング (160点満点)		トータル (800点満点)	
	平均スコア (点)	標準偏差	平均スコア (点)	標準偏差	平均スコア (点)	標準偏差	平均スコア (点)	標準偏差
日本 (n=3,700)	153.2	39.7	163.7	41.4	91.4	17.2	408.3	84.9
韓国 (n=4,019)	205.5	53.2	187.6	49.3	66.5	32.3	459.6	121.5

※本調査では、日本と韓国で受検したGTEC for STUDENTSのテスト実施回、出題内容が特にライティングにおいて異なっている。このため、表中の日本のライティング・スコアは韓国のテスト実施回との比較用に換算したスコアを表示している。

図7-1 ライティング・グレードの割合(日韓)



さらに、韓国のライティングのスコアが低いことについては、国内での英語使用経験からも考えなければならない点がある。今回の調査で、韓国の高校生は日本の高校生に比べて、日常での英語使用経験がかなり高いことがわかっているのだが、それはリーディングやリスニングに関わる項目だけでなく、「英語で日記を書く(経験率73.8%)」「英語でハガキやカードを書く(同58.5%)」などのライティングに関する項目についても言えるからである*1。日常生活で英語の文章を書いた経験があるのに、なぜライティングのスコアが低いのか検討する必要がある。

第二の疑問は、同じグレードでも、日韓で答案の中身は違うのではないかということだ。韓国はリスニングとリーディングのスコアがかなり高く、緑川も指摘するように、韓国の英語教育におけるインプットの量は日本をはるかに上回っていると考えられる*2。そうすると、日韓の答案の中から、ある程度まとまった量と質の英文が期待できるグレード4の答案を比べたとき、韓国のほうが文の長さや使用語彙などにおいて、日本を上回っている可能性があるのではないだろうか*3。

そこで、本章では以下の2つのリサーチ・クエスチョン(以降、RQ)を設定した。

RQ1) 韓国の生徒は、日常での英語使用経験が高く、リスニングとリーディングのスコアも高いのに、なぜライティングのスコアは低いのか。

RQ2) ライティング・グレード4と評価された答案では、日本と韓国でどのような違いがあるか。

*1 「東アジア高校英語教育GTEC調査2006報告書」(2007) 第1章p.17、本報告書(改訂版)第5章p.24参照。

*2 本報告書(改訂版)第5章p.19参照。

*3 GTEC for STUDENTSにおけるライティング答案は、「語彙」「文法」「構成・展開」の3観点の採点と内容評価が行われ、最終的なライティングスコアが算出される。

日本と韓国の高校生

RQ1)に関しては、対象を韓国に絞り、日常での英語使用経験のアンケート結果の詳細な分析*4を行い、さらにリーディングとリスニングのスコアが高いのにライティングでは低い点数を取っている生徒の答案をみとめることとした。RQ2)では、ライティング・グレード4の答案の日韓比較分析を行い、両国のライティング指導の現状と課題を明らかにするよう試みた。

2. RQ1) なぜ韓国のライティングのスコアが低いのか

1) 日常英語使用経験(国内)は高いが、argumentativeな文章を書く経験ではない

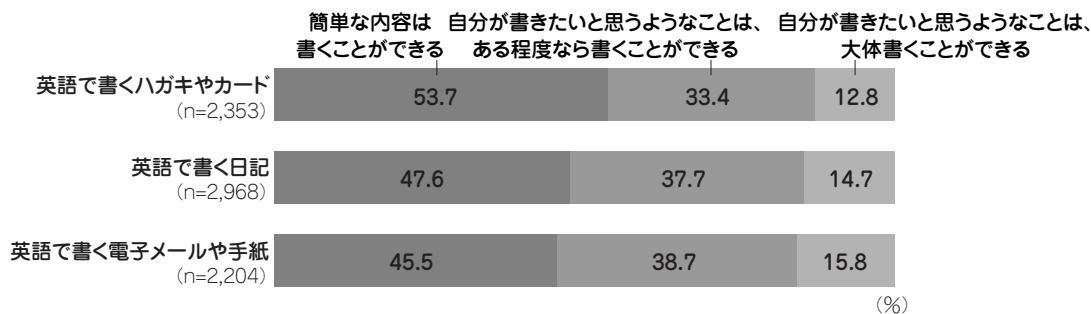
まず、ライティング活動における日常での英語使用経験が高いのにライティングのスコアが低いことについて考える。一つの理由として、日常での英語使用経験としてアンケートでたずねたような媒体(日記やハガキなど)で行うライティングは、GTEC for STUDENTSのライティングで求められているようなライティングと異なるものであることが挙げられる。GTEC for STUDENTSのライティングでは、与えられたテーマについて自分の意見を述べる、argumentativeな文章を書く能力が求められる。あるテーマについて自分の意見を主張し、理由や具体例とともに構成し完結させるargumentativeな文章を、日記やハガキなどで書くことはそう多くないであろう。そのため、こうした媒体でのライティングを経験していても、GTEC for STUDENTSのライティングスコアに反映されないのではないだろうか。

次に、アンケートの結果をもう少し詳しくみていく。韓国調査のアンケートでは、経験の有無だけでなく、4段階で「どれだけそのことが良くできるか」という出来の程度をたずねている。実際に「経験がある」と回答した生徒の出来の分布を調べると、約半分が「簡単な内容は書くことができる」と答えており、ほとんどの生徒は書きたいことが十分に書けるレベルまでは到達していないことがわかる(図7-2)*5。

*4 アンケート項目の説明は、本報告書(改訂版)第5章p.23を参照。

*5 図7-2は、韓国の調査母体4,019人のうち日常のライティング活動経験が「ある」と答えた生徒を対象としている。なお図7-2でみられた分布は、グレード別に出したときも全グレードで同じ傾向を示した。よって、図7-2の結果は、「全体的にグレード2の生徒が多いから、日常の活動もこのように低い出来の割合が高い」というわけではないことを記しておく。

図7-2 国内での英語使用の出来の程度 (韓国)



また、今回並行して行った、教員に対するアンケート結果によれば、教室でも「自分の考えなどを整理して書かせる」という活動は、「全く」または「ほとんど」行われていない場合が48.9～72.1%を占めることがわかった(表7-2)。指導を満足に受けずにargumentativeな文章を書くことは困難である。今回、回答を得られたのは43人と規模が小さいことと、教員の認識が生徒のそれと必ずしも一致しているとは限らないので注意が必要だが、教室でもargumentativeな文章を書いておらず、日常行っているライティングもargumentativeな文章ではない上に、多くの生徒がまだ書きたいことを自由に書ける段階にないとすると、それが韓国のライティングスコアが低い背景なのではないだろうか。

表7-2 ライティングに関する教員アンケート項目への回答 (韓国) (n=43)

	全く 行っていない	ほとんど 行っていない	合計
1. 聞いた内容について、自分の考えなどを整理して書かせる	16.3	48.8	65.1
2. 読んだ内容について、自分の考えなどを整理して書かせる	16.3	32.6	48.9
3. 聞いたことや話そうとすることと関連付けて書かせる	18.6	53.5	72.1
4. 自分が伝えようとする内容を整理して書かせる	25.6	37.2	62.8
5. 自分の伝えようとする内容について、整理して、場面や目的に応じて、読み手が理解できるように書かせる	20.9	46.5	67.4

(%)

ただし、今回の韓国における調査では、教室外でのライティング経験の頻度をたずねていない。経験が乏しいとしたら、うまく書けないのは当然のことである。今回出した推測が正しいかどうかを検証するためには、今後の調査では、生徒にargumentativeな文章を書いた経験についてたずねることはもちろん、日常でのライティングをどの程度経験したことがあるのか頻度もたずねて、結果をつき合わせる事が不可欠である。加えて、日常で行っているライティングのプロダクトを実際に調査し、argumentativeな文章との関係をもみまわることが重要だ。

日本と韓国の高校生

2) 受容技能は高くても、ライティングでの考えのまとめ方や構成の知識がない

次に、リーディング、リスニングの力があるのに、ライティングのスコアが低いことについて考える。日韓のライティング・グレードを、リスニング・グレード(以降、Lグレード)とリーディング・グレード(以降、Rグレード)と掛け合わせた結果は表7-3、表7-4のようになる。網掛け部分は、各表の受容技能(リスニング、リーディング)グレードにおける最頻ライティング・グレード(%)である。

表7-3 リスニングとライティングのグレードのクロス表(日韓)

日本 (n=3,700)

	(%)					
	LG1	LG2	LG3	LG4	LG5	LG6
W白紙	2.4	1.2	0.3	0.4	0.0	0.0
WG1	1.1	0.3	0.4	0.0	0.3	0.0
WG2	31.3	16.5	9.7	7.2	6.1	2.0
WG3	50.0	55.8	53.5	46.2	39.5	29.3
WG4	15.2	26.2	36.1	46.2	53.6	68.1
WG5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.3
WG6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3

韓国 (n=4,019)

	(%)					
	LG1	LG2	LG3	LG4	LG5	LG6
W白紙	31.3	16.6	8.1	4.0	2.8	2.0
WG1	25.4	17.5	10.8	5.3	4.2	1.4
WG2	39.1	54.1	56.1	50.4	39.9	17.9
WG3	4.2	11.1	23.5	35.6	45.2	38.9
WG4	0.0	0.7	1.5	4.7	7.9	39.2
WG5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
WG6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表7-4 リーディングとライティングのグレードのクロス表(日韓)

日本 (n=3,700)

	(%)					
	RG1	RG2	RG3	RG4	RG5	RG6
W白紙	3.9	0.3	0.3	0.5	0.0	0.0
WG1	1.6	0.3	0.1	0.2	0.0	0.0
WG2	35.5	20.0	13.6	6.2	4.8	2.3
WG3	46.9	54.8	56.6	50.6	35.2	17.8
WG4	12.2	24.6	29.4	42.3	59.8	78.3
WG5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.8
WG6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8

韓国 (n=4,019)

	(%)					
	RG1	RG2	RG3	RG4	RG5	RG6
W白紙	36.9	32.2	23.5	10.7	5.2	1.4
WG1	25.0	28.0	23.7	13.3	4.2	1.4
WG2	35.7	37.6	44.7	58.6	51.9	22.5
WG3	2.4	2.2	8.2	16.5	35.2	42.6
WG4	0.0	0.0	0.0	0.9	3.5	31.8
WG5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
WG6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

* 「WG1」～「WG6」はライティングのグレード1～6、「LG1」～「LG6」はリスニングのグレード1～6、「RG1」～「RG6」はリーディングのグレード1～6を示す。

* 「W白紙」はライティングの答えが白紙であったものを示す。

* ■ は、各表の受容技能(リスニング、リーディング)グレードにおける最頻ライティング・グレード(%)。

日本はLグレードとRグレードが低くても、ライティングではグレード3が最頻であるが、グレード4の割合も韓国と比べるとかなり高い。これは一見不思議に思えるが、日本では、リーディング、リスニングといった受容技能の能力が比較的 low、限られた語彙や文法の知識しかない時点でも、平易な語彙や短い文を用いて自分の意見を伝達できているのではないかと考えられる(このことは、グレード4の答えの日韓比較分析において後述する)。

韓国では、LやRのグレードが3や4になっても、白紙答案の割合がかなり高い。さらに、

LグレードとRグレードが4や5でも、ライティングはグレード2を取っている生徒が非常に多い。このことから、韓国の生徒は受容技能が高く、語彙や文法の知識は豊富にあっても、argumentativeな文章としてうまく構成できなかつたり、何を書いていいかわからないために、点が取れないのではないだろうかと考えた。このことを確かめるために、LグレードおよびRグレード両方が5と高いのに、ライティング・グレードが2である韓国の生徒の答案をみることにした。

答案の抽出は、ライティングの平均スコアが韓国の調査校全体の平均と近い分布を示す高校を選び、学年を2年生に統一して行った。LグレードおよびRグレードが5であり、ライティング・グレードが2である生徒は8人おり、今回はこの8人の答案を調べた。なお、ライティング・グレード2の習熟度ガイドラインは、「語いが少なく、文型・構文は単純なものであるが、英語で表現しようとする意思が認められる。／最後まで書けていない文や語順が不確かな文があり、考えが伝わりにくいことがある。」となっている。

韓国のグレード2の答案では、全部が2～4文しか書けておらず、大半は「賛成である」と書いたあと、理由が1文だけで、それも問題に付随しているグラフの読み取りだけで終わっていた*6。「First of all」などのつなぎ言葉を使っているものもあったが、いずれも二つ目の理由を述べずに終わっていた。また、作文の最後に途中で終わっている文があったり、「Sorry」など、テーマに関係ない文が書いてある答案もあった。これらのことは、意見はあるものの、時間内に考えをまとめきれなかつたり、どう書いたらいいかわからなかつたために起こったのではないかと考えられる。

もちろん、大学入試で実際に文章を書くことが要求されない韓国の生徒たちは、GTEC for STUDENTSのような記述式のライティングの問題にしっかり解答するモチベーションが低いであろうことが予想される。今回の調査でも、調査母体に対する白紙答案の数は、日本で38枚(1.0%)であるのに対し、韓国では419枚(10.4%)にのぼっており、この白紙答案の多さをみてもそのことの影響は大きいように思われる。しかし、少しでも書いてあるこれらの答案をみると、argumentativeな文章ではどのように理由などを書くのかわからなかつたり、また、つなぎ言葉などの知識はあっても、それを活用できずに途中で放棄してしまったような印象がある。やはり、考えを整理し文章を構成して書く練習が足りないのではないだろうか。

*6 韓国の問題は「○○という意見に関して賛成か反対か自分の立場を書く」というものであった。今回の調査で用いられたライティング問題は、現在もGTEC for STUDENTSで使われているため、日韓ともに公表を控える。

以上のことから、RQ1)に対する答えは、以下の3点に集約できる。

- ・日常で英語を書く経験はしているが(頻度は不明)、argumentativeな文章を書いているわけではない。
- ・教室内でもargumentativeな文章を書く指導はあまり行われていない。
- ・受容技能が高く、語彙力はあると思われるが、ライティングにおける考えの整理の仕方、文章の構成の仕方がわからないために書けない。

ただし、今回のRQ1)に答えるための分析は、アンケート項目の詳細な数値と、答案を簡潔に調べることで行ったが、結論は推測に拠る部分が多い。よって、本当に構成の仕方がわからないために書けなかったのか、それとも書けなかったのか、という点を検証するためには、さらなる調査が必要である。

3. RQ2) 日韓ライティング・グレード4の答案にどのような違いがあるか

この節では、RQ2)の「ライティング・グレード4と評価された答案では、日本と韓国でどのような違いがあるか」について考える。今までみてきたように、韓国の生徒たちはargumentativeな文章を書く指導を受けた経験も実際に書いた経験も乏しいはずなのに、少ないながらもライティングでグレード4を取る生徒がいるのである。当然、彼らがどうしてグレード4を取れたのか*7、その背景にも興味は湧くが、ここではその部分には踏み込まず、今回は、日韓のライティング・グレード4の生徒の答案はどのように違うかという観点から答案分析を行った。

まず、RQ2)「グレード4と評価された答案では、日韓でどのような特徴の違いがあるか」に対する分析のために、日韓両国から、ライティングの平均スコアが調査校全体の平均と近い分布を示す高校を1校ずつ選び、学年は2年生で統一した(韓国の学校は、ライティング・グレード2の答案を抽出したのと同じ学校である)。グレード4の答案は、韓国が全部で42枚であったためこれを全て採用し、日本では75枚のうちから50枚をランダムに抜き出し、調査対象とした。この合計92枚をすべてテキスト化し、分析を行った。なお、ライティング・グレード4の習熟度ガイドラインは、「課題に沿った話の展開が十分にできている。／接続語句をうまく

*7 まず思い当たるのは英語圏への渡航経験の長さであるが、アンケートの英語圏への渡航経験歴とつき合わせてみたところ、関連はほとんどなかった。

使いながら、論理的に整理された文章が書けている。／難しい語句を使おうとする努力が認められる。／ごくまれにミスによって、考えが伝わりにくいことがある。」となっている。

今回の調査では、韓国と日本で行ったGTEC for STUDENTSのバージョンが異なったため、ライティングの問題も異なっている。日本では、「△△という考えについて自分の考えを書く」ことが要求され、絵が2コマ付随していた。韓国では、「○○という意見に賛成か反対か自分の立場を書く」という問題文で、グラフが2つ付随していた。

1) 調査項目

まず、書いている量を比べるため、文の長さ(1文内の語数)や総語数、異なり語数、パラグラフ数といった、量的な分析を行った。次に、質的分析の項目を、1) 構成に関するものと、2) 語彙レベルの2つに設定した。これは前述のグレード4の習熟度ガイドラインを参考にしたものである。1) では、「課題に沿った話の展開が十分にできている。／接続語句をうまく使いながら、論理的に整理された文章が書けている。」という記述に沿って、考えの整理・構成が出来ているかどうかを、トピックセンテンスやつなぎ言葉、結論文の有無と、構成を乱すパラグラフに関する誤り(1文しかないもの、無意味な改行、途中で終わっている不完全文)の有無によって調べる。また、「難しい語句を使おうとする努力が認められる。」という記述に対し、答案で使用されている語彙のレベルをJACET8000プログラム(JACET、2003)で算出し、日韓でどの程度違いがあるかをみる。

2) 分析結果

(1) 量的分析結果

語数や文数などの、量的分析結果は表7-5のとおりである。

表7-5 日韓ライティング答案の量的分析結果

	日本	韓国
平均総語数 (語)	89.5	127.5
平均異なり語数 (語)	50.0	71.0
平均パラグラフ数 (段落)	1.4	2.8
平均文数 (文)	9.2	9.4
パラグラフごとの平均文数 (文)	7.6	4.3
パラグラフごとの平均語数 (語)	73.3	57.9
1文中の平均語数 (語)	10.3	14.2

日本と韓国の高校生

総語数、異なり語数、パラグラフ数、文数、1文中の平均語数は韓国の方が高い。韓国の問題文には、トピックセンテンスとして使える英文(18語)が載っており、実際にこれらの語を用いて最初と最後をまとめている生徒が多かったので、30語程度は平均総語数から差し引いてみる必要があるが、それでも韓国はかなりの量を書いていると言える。

(2) 構成に関する質的分析結果

構成に関する質的分析結果は、表7-6と表7-7のようになった。

表7-6 より良い構成のための要素がある答案の割合

	日本	韓国
トピックセンテンス	92.0	92.9
つなぎ言葉	14.0	58.1
結論文	12.0	78.6

構成に関しては、冒頭の2～3文以内で自分の意見を端的に表明するトピックセンテンスは両国ともあるが、しめくくりの結論文は日本にはなく、例示をただけで尻切れトンボで終わっている印象のものが多かった。さらに、問題文に付随した絵図を説明したり読み取ったりした文の割合も調べたところ、日本では9.5%で、韓国は19.9%であった(表省略)。問題文の影響も考えられるが、韓国の答案のほうの方がより詳細に図を説明していて、読み手を親切に導いていると言えるだろう。

また、“Firstly”や“In addition”などのつなぎ言葉も、韓国の方が多く使用しており、段落ごとに整理された例や理由が示されて、読みやすい文章を構成していた。つなぎ言葉は、段落の数や総語数とも深く関わっているところなので、日本の答案ではそもそも段落が1つ程度の文章が多かったために使用率が低いと思われる。

さらに、構成を乱す要素の有無を調べたところ、日韓で異なる傾向がみえた。

1文しかないパラグラフの割合は韓国がはるかに多かった。他方で、日本は無意味な改行の割合が多い。また、途中で切れている不完全文の割合は日本が多く、そのほとんどが

表7-7 構成を乱す要素がある答案の割合

	日本	韓国
1文しかないパラグラフ	6.0	34.9
不完全文	22.0	0.0
無意味な改行	54.0	27.9

文章の最後に位置していた。

(3) 語彙レベル

語彙レベルの判定には、JACET8000語彙リスト付属CD-ROM (JACET、2003)にある、レベル判定プログラムを用いた。JACET8000では、レベル1が一番基本的な語彙で、レベル8が一番難しい語彙となっている。分析の際、生徒の答案におけるつづりの誤りは直して分析にかけた。つづりが誤っているものは正しくカウントされず、すべて'over 8 (本稿では「その他」と表記)'とされるため、結果が実態を正しく反映しない可能性があるからだ。よって、本稿では「使いたかったけれど間違ってしまった」語彙も、語彙力の指標として扱っている。結果は表7-8のとおりである。なお、韓国の問題文にあった語彙は、大半がJACET8000でのレベル1に入るものであった。

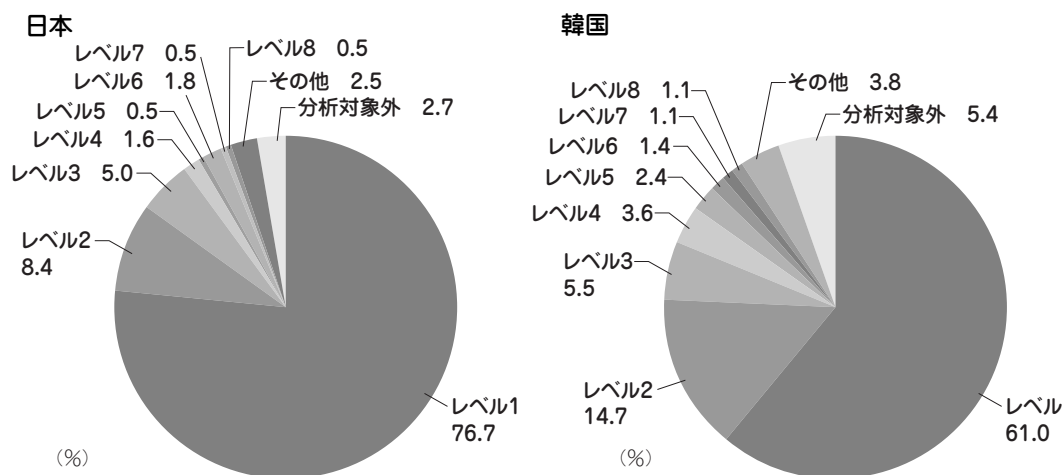
表7-8 JACET8000による語彙レベル分析結果(日韓)

		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	その他
見出し語数 (語)	日本	339	37	22	7	2	8	2	2	11
	韓国	402	97	36	24	16	9	7	7	25
割合(%)	日本	76.7	8.4	5.0	1.6	0.5	1.8	0.5	0.5	2.5
	韓国	61.0	14.7	5.5	3.6	2.4	1.4	1.1	1.1	3.8

*シングルクォート(')を含む語、大文字を含む語、およびアルファベット以外の文字を含む文字列は語彙レベルの「分析対象外」となる。「分析対象外」は表から省略した。

この表の見出し語数の多さをみても、韓国は異なり語数が多いことがわかる。表下部の割合でも、韓国はレベルが上の語彙も多く使われているのがみとれるが、よりわかりやすくするため、表7-8の割合を可視化したものを図7-3に示す。

図7-3 JACET8000による語彙レベル分析結果(日韓)



韓国は、レベル2から5までの語彙が日本に比べて多く使われており、やはりリーディングとリスニングのスコアが高いだけあって、語彙力も高い様子がうかがえる。インプットの量が多いことの効果ではないだろうか。なお、今回の答案分析において日本と韓国の生徒が使用していた具体的な語彙のリストを表7-9に挙げる。JACET8000語彙レベル1～8別に、答案で使用頻度が高かった順に並べたものを上位20位まで挙げた。なお、空欄はそれ以降単語がないことを示す。また、頻度が1のものに関しては、アルファベット順に並べて採用しているので、それ以後のアルファベットで始まる単語も存在する可能性があることを記しておく。

表7-9にある両国のレベル2の頻度上位1、2位の語彙(“equal”や“traffic”など)は、問題文のトピックに関連した語であり、韓国のレベル5の上位2語彙である“driving”と“license”は問題文に出てきている。しかし、韓国はその他の語彙のバリエーションも多いようにみえる。レベル2・3では、日本は“pink”、“baseball”や“cooking”など基本的な名詞が挙がっているが、韓国では“responsibility”、“pollution”といった、抽象的な概念の名詞や、“decrease”や“advertise”などの動詞が多く挙がっている。韓国の動詞の多さは、レベル4以上でもみて取れる。

もちろん、日本で50枚、韓国で42枚と少ない数の答案分析であり、表7-9でも挙がっている語彙は頻度が1のものも多数あり、結果の解釈には注意が必要である。しかしながら、表7-9には載せられなかったが、韓国のほうが語彙リストが遥かに長くなったことから、韓国の生徒のほうが多様な語彙を用いていると推測できる。やはり、グレード4の答案の語彙

レベルは、韓国のほうが高いと言えるだろう。

以上の考察から、ここまでのライティング・グレード4の答案分析結果をまとめると、以下のようになる。

- ・韓国の生徒のほうが、語数を多く書いており、語彙のバリエーションも豊かである。
- ・韓国の生徒のほうが、構成を意識した展開の文章を書いている。
- ・韓国の答案では、絵図に関する説明文の割合が多かった。
- ・日本の答案では、平易な語彙を短い文で用い、簡潔に書いていた。
- ・トピックセンテンスは両国の答案にあったが、日本の答案ではつなぎ言葉および結論文があまり用いられていない。
- ・韓国の答案では、1文しかないパラグラフが多かった。
- ・日本の答案では、文章末の不完全文が多かった。

これらの結果を踏まえて、日韓のライティング指導における課題を次節で考察する。

日本と韓国の高校生

表7-9 JACET8000による語彙レベル別語彙リスト 日韓比較(頻度順)

頻度順位	日本		韓国		日本		韓国	
	単語	頻度(回)	単語	頻度(回)	単語	頻度(回)	単語	頻度(回)
	レベル 1				レベル 5			
1	be	297	be	264	shocked	1	driving	102
2	I	222	the	244	theirs	1	license	28
3	woman	183	age	228			graph	10
4	man	165	to	197			academy	2
5	and	151	accident	129			agreed	2
6	think	126	of	110			curiosity	2
7	to	114	I	106			developed	2
8	not	104	that	92			competence	1
9	the	96	a	89			deprive	1
10	that	94	and	88			descent	1
11	a	92	they	88			frankly	1
12	work	86	have	84			injured	1
13	but	74	not	84			popularity	1
14	for	73	in	83			static	1
15	have	71	people	76			suffering	1
16	it	71	it	67			temper	1
17	in	70	car	63				
18	this	66	driver	55				
19	of	58	should	54				
20	because	56	think	54				
	レベル 2				レベル 6			
1	equal	34	traffic	77	stereotype	21	raised	32
2	equally	17	dangerous	14	housework	14	jam	2
3	cook	8	afford	7	kindness	2	finished	1
4	nurse	8	responsibility	7	frank	1	harmful	1
5	pink	4	careful	6	homework	1	intensify	1
6	earn	3	insist	5	housewife	1	misunderstanding	1
7	economy	3	twice	5	oneself	1	restricted	1
8	factory	2	safety	4	talking	1	thirdly	1
9	female	2	solve	4			thy	1
10	ordinary	2	neighbor	3				
11	ourselves	2	pollution	3				
12	pride	2	proper	3				
13	solve	2	youth	3				
14	talent	2	anger	2				
15	terrible	2	anywhere	2				
16	tired	2	fun	2				
17	active	1	hang	2				
18	advantage	1	obtain	2				
19	breakfast	1	prevent	2				
20	busy	1	response	2				
	レベル 3				レベル 7			
1	gender	29	chart	25	stereo	2	careless	3
2	equality	9	teenager	10	speedy	1	teen	3
3	baseball	7	decrease	7			pollute	2
4	disagree	6	disagree	7			transportation	2
5	grandmother	6	raw	3			abundant	1
6	grandfather	5	unfair	3			additionally	1
7	cooking	3	advertise	2			juvenile	1
8	everyday	3	judgment	2				
9	given	3	secondly	2				
10	era	2	amazing	1				
11	foolish	2	breeding	1				
12	soccer	2	conclude	1				
13	chat	1	conscious	1				
14	clothe	1	consequence	1				
15	differ	1	decent	1				
16	doll	1	delay	1				
17	exact	1	educate	1				
18	math	1	exam	1				
19	musician	1	exception	1				
20	peaceful	1	false	1				
	レベル 4				レベル 8			
1	working	16	according	15	housekeeping	7	motorcycle	2
2	works	11	admission	2	basketball	1	childish	1
3	increasing	2	let's	2			hasty	1
4	used	2	limitation	2			irresponsible	1
5	bind	1	living	2			metro	1
6	instance	1	restrict	2			unskilled	1
7	living	1	statistic	2			yen	1
8			acute	1				
9			commit	1				
10			consequently	1				
11			contrary	1				
12			experienced	1				
13			fewer	1				
14			imply	1				
15			increased	1				
16			increasing	1				
17			induce	1				
18			instance	1				
19			insurance	1				
20			learning	1				

* は、韓国の問題文に記載があった単語(冠詞・前置詞は除く)。

4. 日韓それぞれのライティング指導における課題

ライティング・グレード4の答案の分析結果から、日本は平易な語彙と短い文の連なりで、いわば「効率よく」グレード4の基準を達成していたと言える。一方、韓国は、難しい語彙と長い文、多くの語数を書き、構成も意識した展開がなされており、グレード4の中でもかなり高いレベルの位置にある答案を書いているのではないと思われる。ただし、今回の調査では、日韓で別々のライティング問題を課している。問題の等化が行われているとは言え、トピックの違いは使用語彙や絵図の説明に大きく影響する可能性があり、今後同じ問題での調査を行って検証する必要がある。

両国への課題としては、まず、韓国はargumentativeな文章が書けるようになるためには、考えの整理および文章構成の仕方を教えることが挙げられる。ライティング・グレード4を取るような生徒たちは、書くという発信技能でも使える、豊かな語彙を持っていることがわかった。ライティングで、現時点でグレード2を取っていても、LグレードやRグレードはライティング・グレード4の生徒たちと遜色ない生徒も多数おり(表7-3、7-4)、考えのまとめ方や構成の知識さえあれば、こうした生徒たちも比較的短期間で量を書けるようになる可能性がある。緑川(第5章)によれば、韓国でも近々ライティング指導の見直しや入試の変更が検討がされているので、このことは非常に重要な課題となるだろう。また、既にライティングでグレード4を取れている生徒たちは、パラグラフが1文では構成できないことに加え、絵図の説明に加えて意見を強調する方法などが教えられれば、さらに高いグレードへ移行できる可能性が高い。

日本の課題は、平易な語彙と短い文の連なりで考えを表現できてはいるが、読み手を親切に導くために、説明をもっと書く必要があると言える。今、ライティングについてはグレード4が3分の1を占め、比較的良いレベルに「効率よく」到達してはいるものの、それ以上にライティング能力を高めるためには、例示が短く、結論文のないような作文の域を脱しなければならぬ。そのためには、もっと一定時間内に量が書けるようにならなくてはならず、それに伴い、つなぎ言葉などの使い方も教えていく必要がある。さらに、よりの確に考えを整理し文章を構成していくよう指導する余地もあるだろう。

語彙のバリエーションに関しては、日本は乏しい結果となった。指導への課題としては、もっと発信を意識した語彙指導が必要であると言える。しかし、語彙の充実は教員の努力だけで解決できる問題ではない。学習指導要領で規定している語彙数(清永他、2007)も、教科書の語彙数(緑川、第5章)も、日本は韓国よりも少ないからだ。カリキュラム上、教科

日本と韓国の高校生

書の中で多くの語彙が学べるようになっていなければ、授業でも扱われず、まして生徒たちも身につけられるはずもない。より効果的でargumentativeな文章を書けるようになるために、語彙などの言語材料を充実させることは不可欠である。そのために、語彙指導の見直しに加えて、カリキュラムの改訂も視野に入れた、発信のための言語材料の拡充への取り組みが必要である。

<参考文献>

清永克己・小川直義・平井清子・ファウザーロバート(2007)「日本・韓国・台湾の高等学校学習指導要領における英語科に関する比較研究」 第33回全国英語教育学会大分研究大会発表資料
大学英語教育学会(JACET)基本語改訂委員会(編)(2003) *JACET List of 8000 Basic Words*